

Nagasaki Peace forum 2022



令和4年度 青少年ピースフォーラム 報告書

長崎市／公益財団法人 長崎平和推進協会

1 概 要

全国の自治体が派遣する平和使節団の青少年の皆さんと長崎の青少年とが一緒に被爆の実相や平和の尊さを学習し、交流を深めることで平和意識の高揚を図る目的で平成5年度から長崎市が実施しており、令和元年度から、公益財団法人 長崎平和推進協会が長崎市からの委託を受け実施しています。青少年ピースフォーラムの主な企画及び当日の進行は、長崎市の青少年ピースボランティアが担います。令和4年度は、3年ぶりに対面での開催となりました。被爆遺構などを巡るほか、室内学習では、照明や音響を活用した、戦時下の生活を疑似体験する新たなプログラムを実施する等、「現地で学ぶ・集って学ぶ」意義の感じられる2日間となりました。

また、今年度も青少年ピースボランティアや外部の団体が参加する「千羽鶴」合唱動画を制作しました。当協会公式 Youtube チャンネルで公開しています。

2 令和4年度 青少年ピースフォーラムについて

- ✓ 日時 令和4年8月8日（月） 14：00～18：00
令和4年8月9日（火） 14：00～16：00
- ✓ 当日プログラム

日	時	内 容	<場 所>
1 日目 8 / 8 (月)	14:00 ～15:15	1) 開会行事 ・開会宣言 ・長崎市長挨拶 ・山田一美氏 被爆体験講話	<平和会館ホール>
	15:25 ～18:00	2) 平和学習①「(コース別) 長崎原爆の実相について学ぶ」 【A コース】 ・平和学習 <平和会館ホール> ・こぢんまりフィールドワーク <原爆資料館周辺> 【B コース】 ・被爆建造物等のフィールドワーク <原爆資料館周辺>	
2 日目 8 / 9 (火)	午 前	3) 長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典への参列	<平和公園または中継会場：原爆資料館ホール/出島メッセ長崎>
	14:00 ～16:00	4) 平和学習②「意見交換 平和について考える」 5) 閉会行事 ・修了証書授与 ・「千羽鶴」合唱動画上映	<出島メッセ長崎>

【住所】長崎市平和会館（3階 平和会館ホール） / 長崎原爆資料館……長崎市平野町 7-8
出島メッセ長崎 ……長崎市尾上町 4-1

✓ 参加者

29 自治体：251 名（+引率 96 名）

※ライデン市含む。

※9 日 PM：不参加 3 自治体

青少年ピースボランティア：56 名

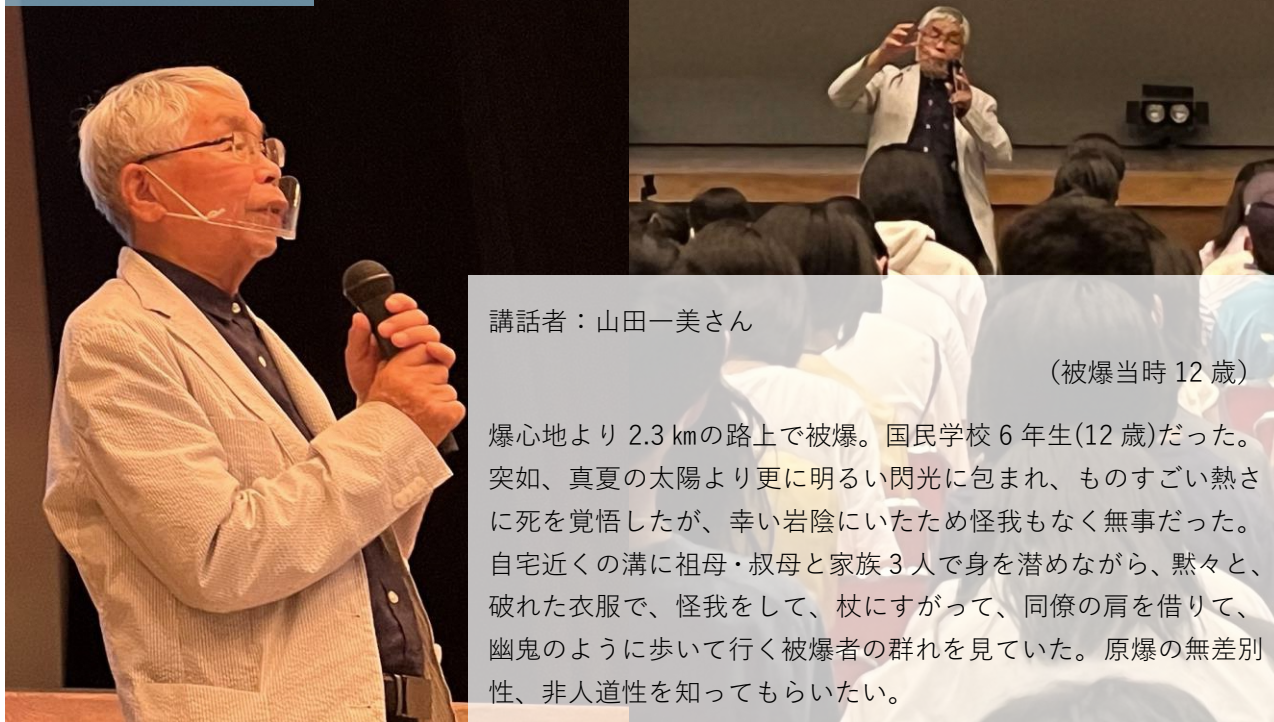
都道府県	自治体名	参加人数
北海道	旭川市	2
北海道	釧路市	5
宮城県	気仙沼市	3
福島県	会津若松市	12
福島県	郡山市	24
千葉県	松戸市	20
千葉県	鎌ヶ谷市	5
千葉県	浦安市	18
東京都	千代田区	6
東京都	港区	8
東京都	新宿区	7
東京都	品川区	6
東京都	板橋区	11
東京都	武蔵野市	14
東京都	調布市	11
神奈川県	藤沢市	15
長野県	中野市	3
岐阜県	美濃加茂市	8
岐阜県	川辺町	5
愛知県	岩倉市	13
京都府	福知山市	4
福岡県	北九州市	20
沖縄県	那覇市	5
沖縄県	宜野湾市	8
沖縄県	石垣市	2
沖縄県	北谷町	9
沖縄県	北中城村	1
沖縄県	中城村	4
オランダ	ライデン	2
合計		251

8月8日（月） 青少年ピースフォーラム 1日目

司会：近藤 拓人（青少年ピースボランティア）

開会宣言：三宅 杏風（青少年ピースボランティア）

被爆体験講話



講話者：山田一美さん

（被爆当時 12 歳）

爆心地より 2.3 km の路上で被爆。国民学校 6 年生(12 歳)だった。突如、真夏の太陽より更に明るい閃光に包まれ、ものすごい熱さに死を覚悟したが、幸い岩陰にいたため怪我もなく無事だった。自宅近くの溝に祖母・叔母と家族 3 人で身を潜めながら、黙々と、破れた衣服で、怪我をして、杖にすがって、同僚の肩を借りて、幽鬼のように歩いて行く被爆者の群れを見ていた。原爆の無差別性、非人道性を知ってもらいたい。

参加者の声

- ・実際に被爆した方の声を聞くことで、戦争や戦争による被害が「むごい」という言葉だけでは表現しきれない程に残酷なものだということを感じることができた。自分が感じた「平和の大切さ」を地元に戻って多くの人に伝えようと思う。
- ・実際に体験した方のお話を聞くと、戦争は全く昔の事ではないのだと感じた。
- ・原爆というのは、家族も友達も家も、全てを奪ってしまう、とても恐ろしいものだということ、改めて感じた。
- ・今回の山田さんのお話を聞いて、77 年前の沖縄戦で起こった出来事と重なる部分が多くあった。どんな理由でも「人間が人間でなくなる戦争」は絶対に起こしてはならない。会場にいた若者達がこの記憶を継承し、次の世代に「命は宝（ヌチドゥ宝）」を伝えていくことが大切だと思った。
- ・戦争の影響や原爆の影響というのは老若男女関係無く、無差別で残酷なものであると改めて実感した。教科書や授業、動画から受けた印象よりも、原爆の被害は遥かに大きかったことを知った。
- ・「戦争になっても何とかなる」と思っている人が多いのではないかと思う。実際、僕もそう考えていたが、山田さんのお話を聞いて、その考えは無くなった。原子爆弾は使用されたらもう逃れることはできないのだと、身に染みて感じる事ができた。
- ・戦争や核兵器は、平和のためになにがなんでも無くさないといけないと感じた。

平和学習① 「(コース別) 長崎原爆の実相について学ぶ」

2つのコース (A コース・B コース) に分かれて、長崎原爆の実相について学ぶ平和学習を行いました。

A

室内学習と、こぢんまりフィールドワークを行いました。

室内学習では、戦時中の暮らしや長崎原爆の被害についての説明の他、今年度新たに作成した「戦時下の生活を疑似体験するプログラム」を実施しました。こぢんまりフィールドワークでは、国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館、原爆資料館の展望デッキや周辺の像を見学しました。



新プログラム「戦時下の生活を疑似体験する」

照明や音・写真を組み合わせることで、空襲など戦時中の状況を実際に体験しているような気持ちになってもらいました。大切な「人」や「動物」、「もの」、「場所」を書いたカードを戦況が悪化するにつれて手放すことで、大切なものが次々に奪われていく「戦争の怖さ」を想像できるプログラムです。



B

平和公園コース・浦上天主堂コース・山王神社コースの3つのコースに分かれて、被爆建造物等のフィールドワークを実施しました。各ポイントでは、青少年ピースボランティアがガイドし、フィールドワーク終了後は、コース別に振り返りを行いました。当日見学した場所だけでなく、他のコースの案内箇所についても学習しました。



平和公園コース

- 【爆心地公園】 原爆落下中心地碑、浦上天主堂の遺壁、被爆当時の地層、下の川
- 【平和公園】 平和の泉、長崎刑務所浦上刑務支所、平和祈念像、平和のモニュメント

浦上天主堂コース

- 【浦上天主堂】 浦上天主堂、鐘楼ドーム
- 【爆心地公園】 原爆落下中心地碑、浦上天主堂の遺壁、被爆当時の地層、下の川

山王神社コース

- 【長崎大学医学部】 ゲストハウス、原爆犠牲者名碑、角尾学長の像、旧正門門柱
- 【山王神社】 坂本町民原子爆弾殉難者之碑、一本柱鳥居、被爆クスノキ



参加者の声

A コース

【室内学習：戦時中の生活・長崎原爆について】

- ・長崎での原爆だけでなく、戦争がどれだけ大変で悲惨なものかをよく知ることができた。紙芝居もわかりやすい言葉や内容で良かった。
- ・過去だけでなく現在のことについても学べたため、明確に課題が分かり、これから私達がどうするべきか考えやすかった。今、世界に存在する核兵器の数を、BB 弾の音で実感して、その数の多さや恐ろしさが分かり、良い体験だった。

【室内学習：「戦時下の生活を疑似体験する」】

- ・父親が年齢的に徴兵される歳で、もし今戦争が起きたら戦場に行ってしまうんだと実感して恐怖を感じた。今まで経験したことの無いワークだったので、参加出来て良かったなと強く思った。
- ・もし戦争になったら、大切な人、生物、もの、場所が失われるかもしれないという事が、体験する事でより深く分かった。自分の心についても、気付くことがたくさんあって良かった。
- ・大切なものを1つ1つ失っていくのが怖いと感じた。
- ・戦時下での生活を現代風に考えることで、より一層戦争や核兵器の脅威が身近なものであり、他人事ではない事が分かった。そして平和の尊さを更に知る事が出来てよかった。

【こぢんまりフィールドワーク】

- ・ピースボランティアの学生がガイドをしてくれて、本当にすごいと思った。
- ・親しみやすいガイドで、平和についての解説がとても分かりやすかった。豆知識を教えてくれたり、こまめに水分補給やトイレを聞いてくれて嬉しかった。他の地域の人とも話せて、とても良かった。
- ・被爆のついで基礎情報と共に、市民がその悲惨さを次の世代に伝えるためにどう行動したのかを知ることができた。追悼平和祈念館の水盤にある七万個の光ファイバーが、原爆で亡くなった人を表していることを知り、苦しんで亡くなった方達の声が聞こえるようで、特に印象に残った。

B コース

- ・ピースボランティアの方々が説明してくださるときに当時の写真があり、わかりやすかった。特に原爆投下前と投下後の写真が両方あると、比較ができてよかった。実物が残っている場合は、直接みることができ、以前よりも戦争に興味をもつことができた。
- ・ピースボランティアの皆さんが体調を気にかけてくれたり説明が上手だったりして、対応がとても良く、すごく勉強になった。クイズがあったりと楽しく学ぶことができた。私がもし長崎市周辺に住んでいたら、ピースボランティアになりたいと思う。
- ・原爆による被害を自分の目で見ることで、肌で原爆の恐ろしさを感じられた。原爆の威力は想像以上で、特に石や柱がずれていたことに驚いた。
- ・実際に被爆した建物や、樹木には、原爆の被害が生々しく残っていた。それでも再生して、今では青々と葉をつけた「被爆クスノキ」には心を打たれた。
- ・平和公園にある平和のモニュメントについて知り、世界の人の平和への想いを知れた点が良かった。

8月9日（火） 青少年ピースフォーラム2日目

司会：津田 匡達（青少年ピースボランティア）



企画・進行：青少年ピースボランティア全員

2日目は、10名程度ずつのグループに分かれて、活動を行いました。

まずはアイスブレイキングを行い、緊張をほぐしてから、3つのテーマに沿って、意見交換を行いました。2日間の学びを深め、自分たちにできることを考えました。

テーマ1：1日目の感想や、地元の平和学習について発表しよう

- ①昨日（8/8）の学習で1番印象に残っていること
- ②自分の住む地域で取り組んでいる平和学習

テーマ2：ケンカ・戦争は、なぜ起きるのか考えよう

- 小中学生・中学生のグループ：どのようなことが原因でケンカが起こるか
- 中高生のグループ：どのようなことが原因で戦争が起こるか

テーマ3：ケンカや戦争をなくすために、どうしたらいいか考えよう

出た意見をグルーピングしながら、皆で考えを深めます。



代表の3つのグループから、

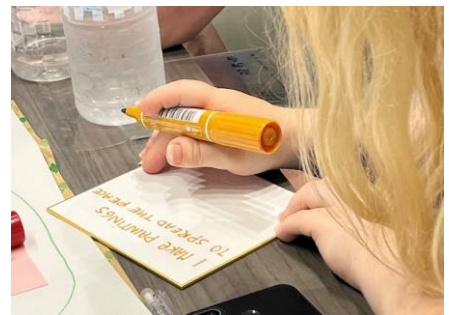
話し合った内容を発表してもらいました！



my 平和宣言

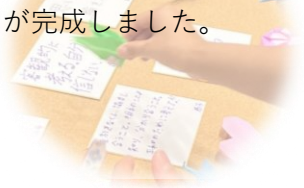
2日間の活動を終えて、戦争や争いのない平和な世界をつくるために「今の私にできること」「将来の私にならできるかもしれないこと」を、参加者一人一人が考えました。

考えた内容を「my 平和宣言」としてまとめ、色紙に書きました。



ピースアート

「my 平和宣言」が完成したら、グループ全員のメッセージを載せた、ピースアートを作りました。折り紙などを使って、思い思いの飾りつけをし、色とりどりのピースアートが完成しました。



折り方を教え合いながら
飾りを作りました！



参加者の声



- ・意見交換の楽しさ、意見を話し合う大切さ、平和の大切さをより深く考え、学ぶことができた。
- ・ひとつのことにに対して答えは沢山あることを学んだ。
- ・自分では思いつかないような考えをたくさん聞くことで考えが深まった。
- ・皆で考えると色々な意見が出て、それをまとめることでより良い意見が導き出せることを学んだ。
- ・たくさんの意見を聞き、「相手を尊重する」「お互いを知る」ということがとても大切だと思った。人と自分は違うと言うことを知った上でその違いを受け入れ、相手のことを尊重して理解しあうことが、平和につながる大きな一歩だと思った。
- ・オランダからの参加者の考え方が、日本ならではの考え方とは違うもので、国によってこんなに考え方が違うのだな、と思った。その方の考え方がとても鋭くて、様々な国の意見を集約すれば、より良い世界に変わるのではないかと思った。
- ・どうしたら戦争にならないかを考えた際に、抽象的になりすぎて難しく、戦争を起こさない努力の難しさを実感した。
- ・都道府県毎に、様々な方法で平和学習をしているという事を知った。平和学習が必要かどうかについても、考えに違いがあった。意見交換の時間では、人との接し方や、発表の仕方について、学ぶことが出来た。
- ・「命さえあれば、前に進める。命さえあれば、希望が持てる。」ということ学んだ。戦争体験者の方のお話は、いずれ聞くことが出来なくなる。だからこそ、今を生きている私たちが、この方達の記憶を受け継ぎ継承していくことが大切だと思った。
- ・平和な世の中を実現するために、戦争や平和について学び続け、この悲惨な出来事を忘れず、次の世代へ伝えていけるような人になりたいと思った。

2022 千羽鶴合唱プロジェクト



撮影協力：

長崎純心大学、マインツ・カトリック大学、国際基督教大学、
ひこみのほし保育園、深堀こころこども園、長崎や広島の人々、
青少年ピースボランティア

～平和の発信に携わる一員として、
一人一人の想いをこの歌を通じて発信したい～

昨年に続き作成した2022年 ver.は、国内外の
多くの人のご協力を頂き、完成しました！
フォーラム閉会式で初公開した映像は、現在も
Youtubeで視聴することが出来ます。

動画はこちらから!!

♪「千羽鶴」

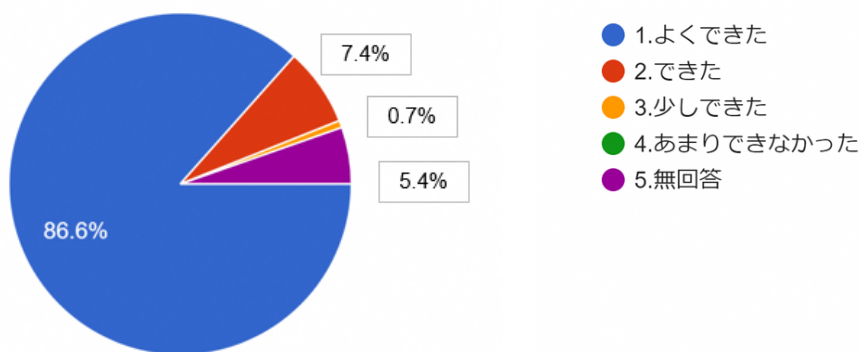
作詞：横山 鼎

作曲：大島 ミチル

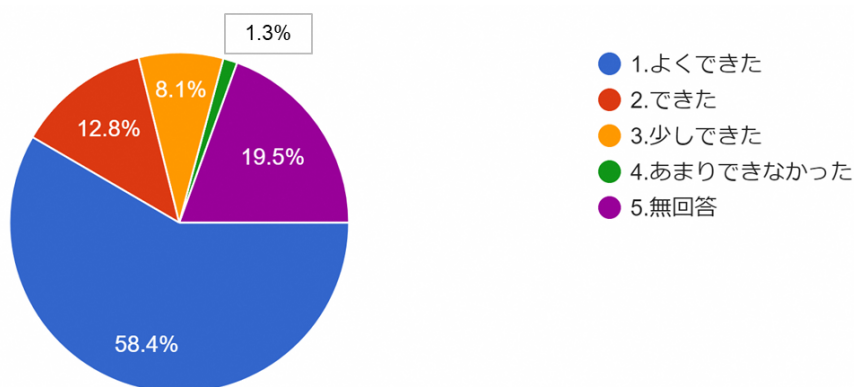


3 アンケート結果

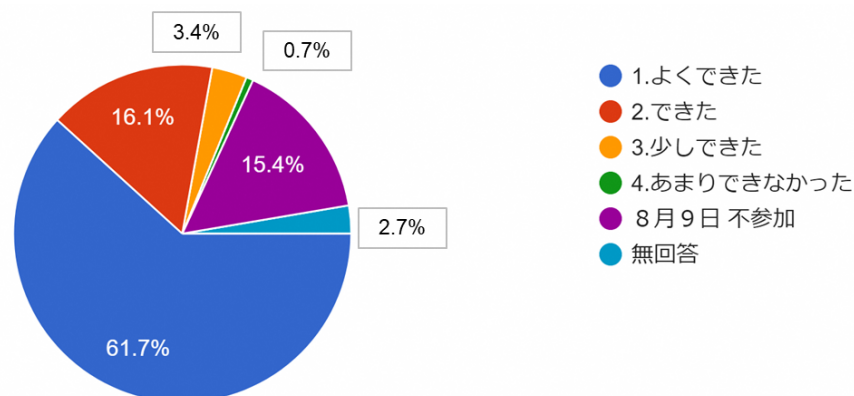
1. このフォーラムに参加して、被爆の実相や平和の尊さを学ぶことができましたか。



2. 2日間を通して、他の自治体の参加者と仲良くなることができましたか。



3. 2日目の意見交換では、自分の意見を発表することができましたか。



ご意見・ご感想（職員様方より）

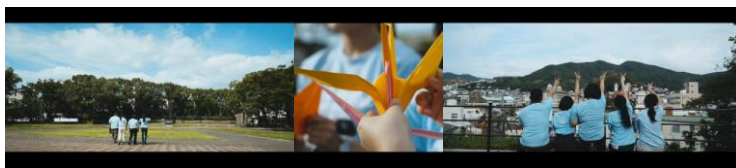
- ・企画・運営に携わっている高校生等の姿から、より自分事として感じる事ができた様子だった。参加者は、自分たちと年齢の変わらないボランティアが頑張る姿に刺激を受けていた。
- ・Aコースの室内学習「戦時下の生活を疑似体験する」では、実際に戦争が起こったら、どれだけの人や物を失うのかという事を、身をもって経験していた。大切なものを書いたカードを捨てるだけでなく、音響やプロジェクターを使用することで恐怖心も芽生えていた。工夫が素晴らしかった。
- ・戦争を経験していない高校生などが、当時経験された方々の想いや経験を受け継ぎ、発信している姿に大変感銘を受け、刺激を受けた。私たちにとって、栄えている長崎市は当たり前の姿になっていて、本当にここに何もなくなってしまった時期があったのかと感じるほどだったが、フィールドワーク等を通し、痛ましい出来事を現実の事として受け止め、感じる事ができた。

青少年ピースフォーラムで行っているフィールドワークについて、
各コースのダイジェスト動画およびフォーラム PR 動画を当協会
Youtube チャンネルにて公開しています。

長崎原爆に関する導入学習や振り返り、コース選定の参考として
是非ご活用ください。



動画はこちらから!!



長崎平和推進協会

YouTube



Instagram



PEACE.WING0809



長崎市

長崎市の平和・原爆

Facebook



令和 4 年度

青少年ピースフォーラム 報告書

発行 公益財団法人 長崎平和推進協会

所在地 〒852-8117

長崎市平野町 7 番 8 号

電話番号 095-844-9922

FAX 095-844-9961

E メール keishou@peace-wing-n.or.jp